

アウクスブルクでの素敵な一週間

金山 日南佳

はじめに

私のアウクスブルクでの一日はこれからの一週間に期待と希望でいっぱいスタートとなった。ヨーロッパを訪れるのはこの機会が初めてだったが、一日目から将来ここに住みたいと思わせるほどアウクスブルクは素敵な印象だったことを今でも覚えている。

アウクスブルクでの思い出

アウクスブルクは毎日天気がとても良く、早朝に雨が降った日もあったがすぐに晴れて青空が広がっていた。二日目にバイエルン地方の朝食白いソーセージとプレッツェルを食べてから向かった先はずっと楽しみにしていたノイシュヴァンシュタイン城、今まで一度は訪れて見たいと思っていたお城だったため、一つ夢が叶った。お城までは馬車で行き、雲ひとつない青空の下に凛々しく建つお城は圧巻だった。外観も内装も豪華で細かな所まで施された飾りやデザインに感動し、心をひかれた。中世から時が止まっているようで自分がその時代にタイムスリップしたように感じた。



ノイシュヴァンシュタイン城

ホストファミリーが夕食を食べにビアガーデンへ連れて行ってくれた日があった。生まれて初めてのビアガーデンに緊張しながらアウクスブルクの石畳をホストマザーと一緒に歩いたことを覚えている。お話をしながら食事をしていたらお店を出る頃には22時になっていて時間が経つことが早いことに驚いた。その後、アウクスブルクのリビングルームと呼ばれる市庁舎から続くメインストリートに連れて行ってきて、日中とは違った夜の町並みを見ることができた。



素敵な方々との出会い

アウクスブルクでの七日間の滞在中に素敵な出会いがたくさんあった。私のことを家族として受け入れてくれたホストファミリー。毎晩夜遅くまで時間をとってお話を一緒にして下さった。ホストマザーはどこに行く時も常に隣にいて私の知らないことを教えて下さったため、毎回勉強にな

った。いつも細かいことまで気付いて気にかけてくれたので本当のお母さんのように感じた。ホストファザーもホストマザーと一緒にたくさんのことを教えてくれ、彼の愉快的な発言で何度笑ったか覚えていない。ホストシスターとは、三日目の Zwetschkuchen(スモモのケーキ)作りの時に、カラオケで一緒に歌い、お話をたくさんしたことをきっかけに仲良くなる事ができたので、とても嬉しかった。週末には、ギターを教えてくれてすっかりギターを弾くことにはまった。最後の日の夜には、2人でコンサートを開いてホストマザーとホストファザーの前で練習した曲を披露した。今ではその時に2人で弾きながらホストシスターが歌ってくれた歌が思い出の曲になって、帰りの飛行機でもずっと聞いていた。家族の一員になれたことが本当に嬉しいと伝えたらこれからもずっとそうで、いつでもアウクスブルクで歓迎すると言ってくれた。また、私達を色んな所へ連れて行って下さったドイツの過去の青年使節団員の方々やアウクスブルク市役所の方々、翻訳をしてくださった方々ともたくさんお話をすることができた。みなさんいつでもドイツ語を優しく教えてくださり、その会話を通してより親しくなれたと感じた。また、毎日1フレーズの言葉を教えてもらい、家に帰ってからホストファミリーにその言葉を使うのが一つの楽しみだった。ホストファミリーは毎回私とそのフレーズを言い終えるまで笑顔で聞き、喜んで答えてくれ、毎日新しい単語を教えてくれた。いつの間にかドイツ語が大好きになっていて、一つ

でも知っている単語があれば英語と混ぜて喋っていた。機会があれば自分から話しかけることを心がけていたが、そのおかげでより様々な人とコミュニケーションをとることができ、お互いをわかりあうことができた。この素敵な出会いに感謝の気持ちでいっぱいだ。

おわりに

アウクスブルクでの滞在は、毎日初めての景色と自然に触れ、新しい発見をすることのできた充実した一週間となった。また、毎日内容が濃く時間が経つのがとても早かった。帰国後の一週間はホストファミリーを思い出して泣いてしまうほどアウクスブルクが恋しく、それほど私は素敵な時間を過ごしたのだと改めて実感させられた。アウクスブルクでの滞在をきっかけにドイツが大好きになり、ドイツ語にも興味を持ったので早くアウクスブルクにもう一度訪れてホストファミリーと再会し、ドイツ語で会話することを目標に、ドイツ語の勉強を始めようと思う。